

関西パビリオン 京都ブースの概要（案）

①京都ブース展示

CONCEPT

- 国家の枠組みを超えて、人と人が集い、語り、新しい関係が構築される場所
- 川や水のように形を変えながら、府域とつながり、京都に訪れたい場所

特徴

- コンセプトを踏まえた京都らしいデザイン
- 「文化・環境」「産業」「観光」「地域」の各分野をテーマにした企画が一定期間ごとに展開
- 未来の京都を担う若い世代が中心となり、府民や府内企業の活力や想像力を最大限発揮した企画を展開
- 来場者は展示の他、実演や交流イベントなどにより、京都の魅力や奥深さを体感
- 来場者が府域のイベントと連携した企画に触れ、本物の京都を訪問

イメージ



今後の予定

大阪・関西万博きょうと
基本構想の策定

コンセプト検討

コンセプト・仕様決定

基本設計

実施設計

施工

上記の内容を基に、ブースの基本設計のプロポーザルを実施予定

コンセプト・キーワード

海外から来訪された方にとっての玄関口となる港と捉え、国家の枠組みを超えて、人と人とが集い、語り、新しい関係が構築される場所とする。

また京都は、基本構想の全体テーマである「一緒につくろう、京都の未来～伝統と革新で拓く～」にもその要素が見られるように、古来より脈々と受け継がれてきた伝統文化の中に、外からの新しい知見を積極的に取り入れながら、さながら川のように発展してきた。京都には、現代、そして未来に通じる生きるための知恵がある。

本ブースでは、テーマの異なるカンファレンスやパフォーマンス、情報発信を日々展開することで、川や水のように形を変えながら、リアルタイムで府域とつながり、その知恵を感じることのできる場所としたい。

ブースの活用方法

- 一定期間での入替えにより、企画を順次展開する。
- 未来の京都を担う若い世代を中心に、府民や府内企業の活力や想像力を最大限発揮できるような企画とする。
- 府域で開催するイベント等と連携した情報発信を行い、万博会場をゲートウェイとした府域への来訪促進を図る。
- 展示や実演を行う人が、自由に自らの企画を実施できるような空間とする。

<設計のあり方>

- 性別、文化、言語の違いや障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるユニバーサルデザインに配慮した計画を行う。展示コンテンツは多言語表示が可能な仕様を検討する。
- カーボンニュートラルや環境に配慮した設計を行うとともに、府内の資材や人材を積極的に活用する。

京都ブースに必要な機能

• 展示、実演、交流機能

基本構想の趣旨に沿った取組の展示やプレゼン、実演ができ、また、発表者や参加者が交流できる機能。
プロジェクターとスクリーンを必置

• ゲートウェイとしての京都への誘客機能

万博会場から京都府域で開催する関連イベントの参加者等とコミュニケーションが取れる機能。
府域イベントの情報発信等。